

グリーンイノベーション基金事業に関する検証シナリオ（第三次案）についての RIETI EBPM センターからのアドバイス

2024. 6

RIETI EBPM センター

本アドバイスは、経済産業省における政策の効果検証をより深めていくため、大橋弘先生、北尾早霧先生、渡辺安虎先生、江藤学先生を含む RIETI EBPM センターのアドバイザリー・ボードのメンバーにご意見を頂きながら作成したものです。

1. 検証シナリオ（第三次案）の評価

- 2024 年 6 月 25 日に経済産業省により公表された検証シナリオ（第三次案）においては、2022 年 11 月に公表された検証シナリオ（第一次案）、2023 年 8 月に公表された検証シナリオ（第二次案）をもとに、アウトカム指標ごとの測定手法を検討するとともに、各プロジェクトの進捗状況等を把握するための、長期アウトカムに対する期待値に係る推計モデルが構築された。
- 上記取組についての方向性は妥当なものである。特に後者については、複数の研究開発プロジェクトからなる基金事業全体として成果を最大化するためのマネジメントの仕組みを導入する試みであり、こうした手法を長期の技術開発プロジェクトに適用してアジャイルに政策評価を行う取組は画期的なものであり、今後類似の政策のマネジメントにも活用される「先行事例」として価値があるものと考えられる。

2. 今後に向けて

- 上記評価を踏まえつつ、今回の取組を政策形成に生かしていくという観点から、今後中長期的に検討していくべき点について述べる。
- まずは、現在、事業期間のうち 3 年が経過したことを踏まえ、各研究開発プロジェクトのステージゲート等における見直しのタイミングにおいて、検証シナリオで提示されている手法も踏まえ、プロジェクト間の関係性も参考に、評価を進めていくことが望ましい。
- また、2023 年 8 月に公表したアドバイスでも触れているが、今後、類似の研究開発プロジェクトの政策評価にも生かしていくことができるよう、本基金事業における EBPM の取組の中でアウトカム指標に関わるデータを随時見直しつつ、収集して蓄積していくことが重要であり、今後、各プロジェクトの成功率や普及確率について、その予測と実際を蓄積していくことが望ましい。

- 同時に長期の状況変化を踏まえ、**本モデルがプロジェクトの固定化に繋がらないよう、実態に合わせて継続して見直していくことも重要である。**その際、政策評価の基本である「政策がなかった場合と比較してどのような効果があったか」という考え方に則り、この事業がなかった場合との比較を考えることも重要である。長期に渉る大規模な技術開発プロジェクトである本事業の性質上、厳密に比較することは難しいと思われるが、本事業が無かった場合に現状と比べどのような違いが発生したかを企業に聞く等の方法も一案である。

- 最後に、本検証モデルにとらわれず、そもそもプロジェクトをどう進捗管理するのかが、本基金事業を成功に導く上で、非常に重要である。**国内外の研究開発プロジェクトの管理手法も参考にしながら、同様の事業の成功または失敗の要因に学びつつ、フィードバックをかけながら最終的なアウトカムに繋げていくという視点は重要にされたい。**

以上